

我が国の酪農を支える釧路港



釧路港

before >>> after

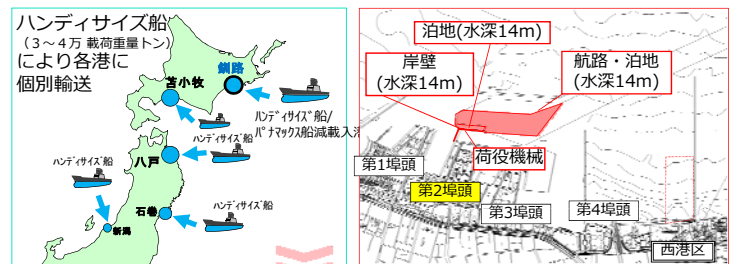
- 釧路港は、我が国の乳用牛の4割を生産する東北道において、飼料原料となる穀物の輸入基地となっている。
- 昭和56年の西港区第2埠頭の完成以降、背後地に飼料工場が多数立地。飼肥料の取扱が増加し、道東の酪農業に貢献。

- 現状では、岸壁水深が不足しているため、パナマックス船（6～8万 載貨重量トン）が満載で入港できず、減載して入港するなど非効率な輸送体系となっている。
- 国際的な穀物の取扱拠点とするため、釧路港の岸壁水深を満載したパナマックス船に対応したものとし、
 - ・ 北米から釧路港への大量一括輸送
 - ・ 釧路港から連携港への2港寄り、3港寄りを可能とすることで、**年間海上輸送コストを約4割削減**することを目指す。

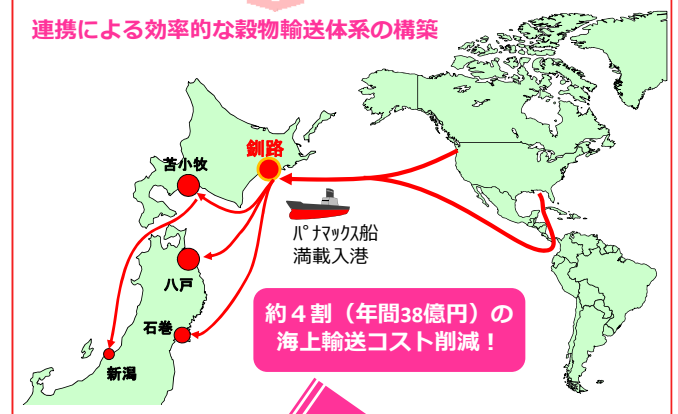
埠頭完成後の飼料工場の立地



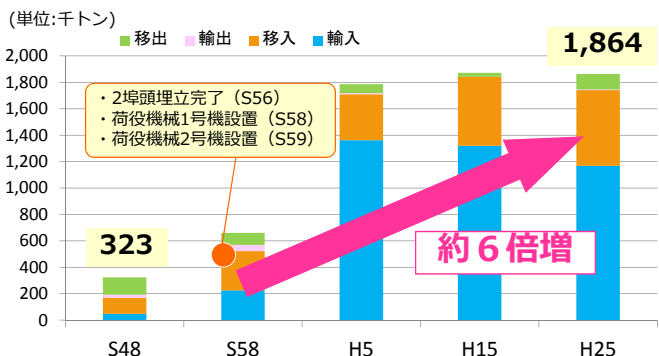
釧路港の機能強化



連携による効率的な穀物輸送体系の構築

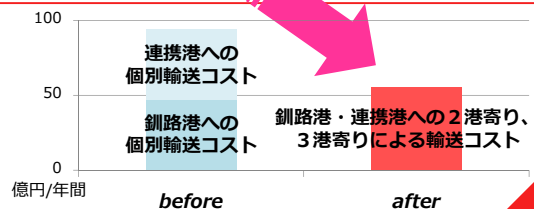


釧路港における飼肥料取扱量^{※1}



(出展:釧路港統計年報)

※1.動植物性飼肥料の内訳
 S48～H5:麦、米雑穀豆(米、とうもろこし、豆類、その他雑穀)、動植物性飼肥料
 H15以降:麦、米、とうもろこし、動植物性飼肥料



ストロク効果